

平成29年度の主な取り組み事項

水道システムの最適化(水源)

- 上ヶ原浄水場の再整備の検討について 18百万円

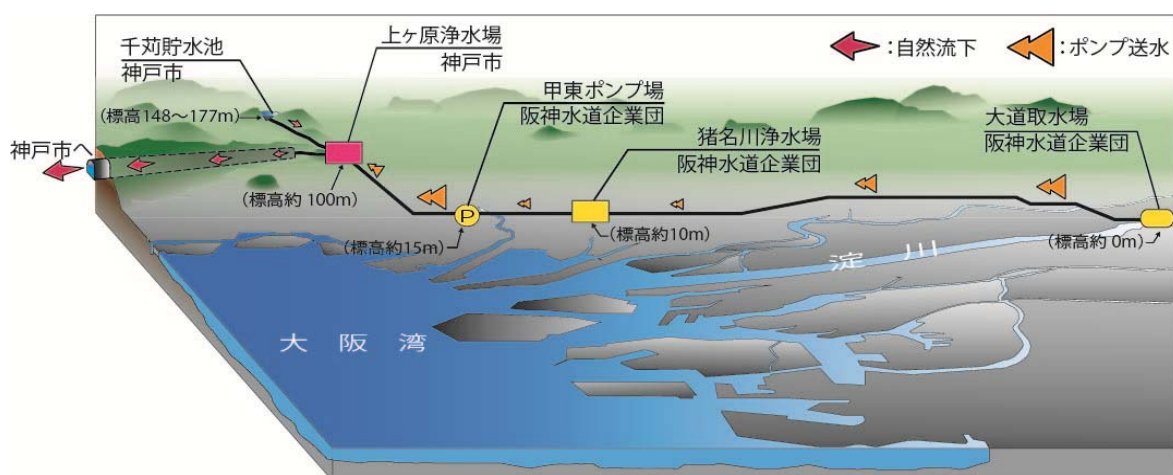
～ 千苺貯水池の活用と上ヶ原浄水場の再整備 ～

千苺貯水池による阪神水道系へのバックアップ機能を強化するために、上ヶ原浄水場の再整備を検討します。

平成29年度の取り組み事項

従来の官中心による整備手法だけでなく、公民連携による整備手法も含め、その効果や課題などについて検討しました。

今後は、検討結果を踏まえ、定性的・定量的な観点から再整備手法を決定していく予定です。



- 千苺貯水池水源涵養林保全活動 4百万円

～ 市民・地域と育む「水源の森プロジェクト」の推進 ～

流域市町や住民、ボランティア団体、企業などと連携した活動体制を構築し、千苺貯水池流域の水源涵養機能の回復・維持に努めます。

平成29年度の取り組み事項

平成29年5月に「千苺貯水池の水源涵養に関する協定書」を結んだ「麒麟株式会社」並びに市民講座の修了生を中心に、千苺貯水池流域での保全活動に取り組みました。また、親子見学会等の機会を活用し市民向けの環境学習を実施しました。



災害に強い水道施設の整備

～ 耐震化の推進 ～

阪神・淡路大震災以降、「神戸市水道施設耐震化基本計画」に基づき、耐震化施策を進めてきました。耐震化は地震等による被害を低減するほか、被災した場合の復旧期間を短縮する効果があるため、今後も耐震化を推進する必要があります。

● 基幹施設に関する地震への対策

261百万円

配水池の耐震化を実施し、「中期経営計画2019」における平成31年度の耐震化施設率80%以上の82%を達成しました。

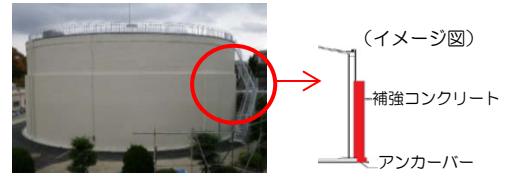
引き続き、計画的に耐震化を推進します。

平成29年度実施箇所

- ・ 千苅浄水場
- ・ 灘特1高層配水池



◆ 配水池の耐震化 ◆



● 経年配水管の更新・耐震化

3,940百万円

高度経済成長期に布設した大量の配水管が更新時期を迎えることから、配水管の更新ペースを段階的に増加させ、平成31年度目途に40km/年に増加させます。

なお、更新にあたっては耐震化を図るとともに、今後の配水量減少を勘案した配水管のダウンサイジングを図る等、配水管網の再構築を進めます。

また、新材料を採用する等、更新費用が安価となる取り組みもあわせて実施します。

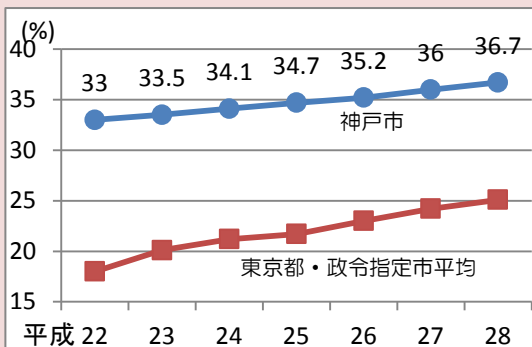


配水管工事

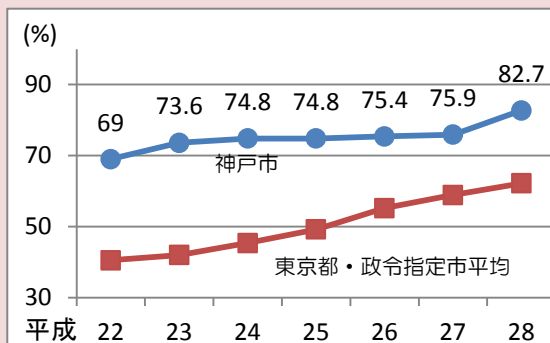
平成29年度更新延長 26.3km
29⇒30年度繰越更新延長 11.6km

◆ 参考データ ◆

【管路耐震化率の推移】



【配水池耐震化率の推移】



バックアップ体制の強化

～ バックアップ施設の整備 ～

基幹施設における事故等に備えて、市民への影響を最小限に留めるために、基幹施設の複数系統化を計画的に実施します。

市街地送水施設の連絡及び北神地区送水施設の再整備を推進し、送水施設のバックアップを確保することで、給水の安定性の確保を図ります。

	市街地送水施設の連絡	北神地区送水施設の再整備
整備による効果	2本の送水トンネル間で水を融通できるように、市街地送水施設の連絡を行います。 これにより、神戸市西部地域における約26万人の給水安定性が向上します。	北神地区での送水2系統化を図るため、送水施設の再整備を行います。 これにより、北神地区における約4万人の給水安定性が向上します。
整備規模	<ul style="list-style-type: none"> 整備区間 妙法寺～奥畑 延長 約3.8km 口径 1,600mm 	<ul style="list-style-type: none"> 整備区間 堀越～有馬 花山～唐櫃 延長 約12km 口径 200～600mm
スケジュール	平成33年度完成予定	平成45年度完成予定



● 市街地送水施設連絡管の整備

32百万円

平成29年度実施工事概要

市街地の西部（奥平野浄水場以西）については、基幹的な送水施設である2本の送水トンネルが単独で機能しています。

そのため、2本の送水トンネルを連絡することで、基幹的な送水系統の多重化を図るため、工事に向けた土質調査及び基本設計を行いました。

● 北神地区送水施設の再整備について

367百万円

平成29年度実施工事概要

北神地区については、千苅浄水場系の事故に対応するため、阪神水道系でも送水が可能になるように整備を進めています。

有野・有馬地区方面の給水の安定性の確保を図るため、平成25年度から有野・有馬間の送水設備の管路及びポンプ場の整備を行っており、引き続き、北神地区の2系統化を目指します。

● 市民とともに築く災害対策

15百万円

～ 市民とのリスクコミュニケーション強化 「ふっQすいせん」の整備 ～

従来の「いつでもじゃぐち」は配水池から配水管までの耐震化が完了したシンボルとして、整備を進めてきましたが、全ての配水管の耐震化には時間を要することから、耐震化に関わらず、災害時に避難所として、利用する小学校を中心に防災福祉コミュニティ単位に1箇所「ふっQすいせん」を整備することで、復旧とともに順次、給水が可能となり、より身近な場所で水道水の入手が可能になります。

平成29年度の取り組み事項

6箇所の「ふっQすいせん」の整備を行い、応急給水を中心とした防災訓練や広報イベントを実施しました。

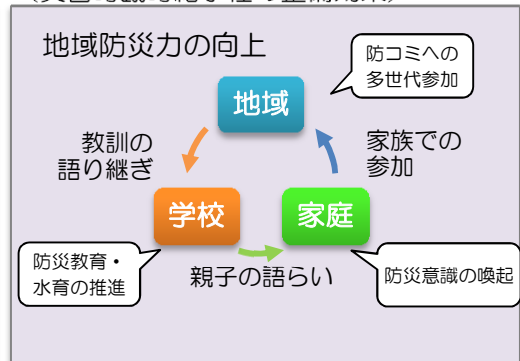


【整備目標】 地元住民と調整を行いながら小学校を中心に整備を目指します

(災害時給水拠点の体系図)

災害時給水拠点 [323か所]	(平成29年度末)
地域住民で開設可能な災害時給水拠点 [81か所]	①貯水機能のある災害時給水拠点 (鍵渡し済) [32か所] ②災害時臨時給水栓 [49か所] (いつでもじゃぐち、ふっQすいせん) [41か所] [8か所]
水道局が開設する災害時給水拠点 [242か所]	①貯水機能のある災害時給水拠点 (要鍵渡し) [30か所] ②災害時臨時給水栓 [212か所] (緊急栓)

(災害時臨時給水栓の整備効果)



広報とコミュニケーションの充実・強化

～ 豊かな水文化の醸成 ～

神戸の水道の仕組みや、水道水の安全性等について、環境や防災への取り組み等を一体的に広報を展開し、水道事業への理解を深めていただく取り組みを推進します。

● 子どもを中心とした幅広い情報発信について

10百万円

● 布引の水を活用した水道水の広報について

2百万円

平成29年度の取り組み事項

従来から取り組んでいる水道週間イベント、親子水道施設見学会、震災イベントに加え、小学校近隣にある配水池の見学会や、水の科学博物館建築100周年記念イベント、子ども向けの遊んで・学べるキッズページ「みずトピア」の作成を行いました。

また、布引溪流の水を活用した水道水のPRとして、水道水のみならず神戸市全体のPR活動につながるティアップボトルの作成について、他局や民間事業者にも協力を求めていきました。

